

大久保 規子

法学研究科・教授

【研究】

今年度は、第1に、前年度に続き、自然の権利に関する学際的な研究プロジェクト(科研費基盤 A:研究代表者)を推進し、サバティカルを活用して、1ヶ月近い南米調査等を実施した。第2に、コミュニティ参加型の自然資源管理に関しても、北タイに焦点を当てて日本及びタイの研究者による協働研究(科研費国際共同 B:研究代表者)を継続し、北タイでの現地調査を共同実施した。そのほかにも、学内では SSI の協力研究プロジェクトを継続実施し、学外でも高レベル放射性廃棄物、気候変動、防潮堤の合意形成等に関する科研等の共同研究に分担者として参加するなど、上記2つの研究を柱に関連する研究を進めた。そして、これらの研究成果について国内外での学会報告、論文の公表等を行った。論文のうち1本は、フランスの雑誌にその仏訳が掲載された。

【教育】

後期からサバティカルを取得したため、例年担当している法学部、法学研究科、高等司法研究科の担当授業を前期に集中的に行った。

【管理運営】

サバティカルを取得したため、兼任教員業務のほか、管理運営業務は免除された。

【社会貢献】

今年度は、10 月に日本学術会議第一部副部長に指名されたことを受けて、学術会議の活動に多くの時間を費やした。また、前年度に引き続き、中央環境審議会委員、交通政策審議会委員、文科省環境エネルギー科学技術委員会委員、大阪府公害審査会委員、環境審議会委員(京都市、神戸市等)、環境影響評価審査会委員(尼崎市、京都市等)等、国及び自治体の審議会等で、新たな施策の立案、適正な紛争処理等に努めた。また、環境法政策学会、日本公法学会の理事等として学会の運営に参加した。さらに、NGO等が主催する講演会等において、研究成果の社会還元に努めた。